

報告者氏名

牛久 晴香

平成 21 年度 (入学・編入)

1.研究課題:

ガーナ北部における輸出用バスケット製作に関する社会経済的研究

2.派遣期間:

平成 23 年 12 月 10 日 ~ 23 年 12 月 30 日 (20 日間)

3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

調査地到着後 1 週間で帰国しなければならなかったため、目的として挙げた点について十分に調査を行うことができませんでした。ただし、製作工程における分業体制やバスケットの製作工程の一部が今回の調査で新たに明らかになりました。具体的には、生産/流通の分業に加え、盲目の人が編み手から依頼されてわらを繕う仕事を行っていること、つまり製作工程でも一部分業が進み、障害を持つ人も産業に包摂されていることがわかりました。また、本体を編む工程以前に、わらを繕う工程や染色の工程に、より多くの時間がかかっていることが明らかになりました。加えて購入するわらの束の中にも、編むのに不適なわら、細いために編み芯として使われるわら、太いために骨として使われるわらがあり、それらを選り分ける必要があること、さらに本体の編み方によってもわらを選別していることがわかりました。以上から、準備工程の時間に本体を編む以上の時間がかかっており、カゴを短期間で大量に生産することは容易でないことが示唆されました。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

次回以降の海外調査では、今回調査が十分に行えなかった生産者のバスケット生産への関与の仕方を実証的に明らかにしつつ、今回の調査で明らかになった点も踏まえて、バスケット産業全体を成り立たせるローカルな仕組みについて考察を深めていきたいと考えています。今後も現在の調査地での調査を進めていくとともに、原料生産地での調査や調査村周辺の生産村での比較調査、さらにガーナ国内・国外の卸売業者への聞き取り調査に取り組み、この産業全体の生産・流通構造を明らかにしていきたいです。国際市場の動向や流通構造も含めて人々の営みを理解し、多角的にこの地場産業を分析することによって、同地域に暮らす人々がいかにもたらされたグローバルな市場機会に対応し、いかなる形でこの地域と国際市場とのつながりが維持されているのかを明らかにしていきたいと思っています。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

海外でのフィールドワークを通じて地域が直面する課題を直接見分し、考える機会を与えてくれるこのプログラムは、応募できる研究助成が限られているアフリカ地域研究の学生、とくにフィールドワークを基盤として総合的な地域理解を目指している学生にとって大変貴重なプログラムであると思います。また、学生の主体性を尊重した奨学金という形で資金を提供してくださったため、領収書等を受け取るのが難しいアフリカでのフィールドワークを円滑に進めることができ、大変ありがたかったです。今後も本プログラムのような留学プログラムがあれば、ぜひ参加させていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

署名